

# 熱傷治療の検討

呉市医学会 H22年11月28日



医療法人社団たつき会  
菅田医院  
菅田宗樹

# 対象

- 平成20年4月～現在までに終診した当院熱傷患者数は91名
- 平均通院日数は約5.5回(1回～50回)
- 平均治療期間は約11日(1日～100日)
- 全治療患者に**抗生剤・消毒不使用**
- 全治療患者に**ステロイド軟膏使用**

※他院からの転院や途中中断、1日のみの患者も人数に含まれています

# 熱傷治療の現状

- 深達度評価が曖昧(難しい)
- ガイドラインが作成されているが、十分にエビデンスのあるものは少なく矛盾が多い
- 医療機関で処置方法が異なり手術適応など判断基準に疑問が多い

# 当院熱傷治療の実際(処置手順)

1. 水疱は通常切除(軽度ではフィルム保護穿刺)

2. ステロイド外用軟膏を塗布

3. 吸収性の良い被覆材で被覆

4. 必要に応じテープ固定

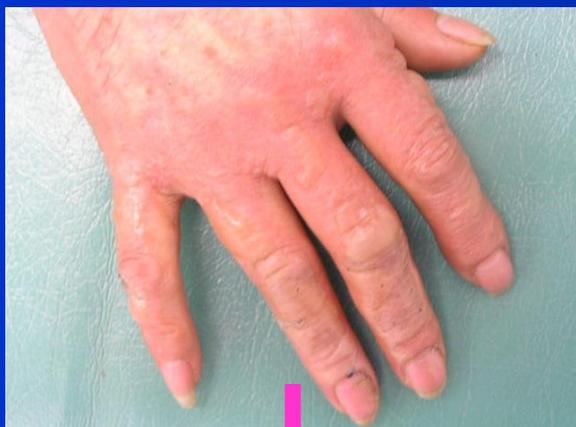
※再診時は軽く洗浄し2.処置から実施

※状態安定したら自宅での処置推奨

**※経過中創への消毒は一切せず!**

# 当院熱傷治療の実際(症例)

## 63歳女性たき火で受傷



水疱除去



被覆・使用可



23日間で治癒  
13回処置



硬縮なく  
3週間で  
治癒

# 当院熱傷治療の実際(症例)

小学男児 ラーメンを作る熱湯が服の上からかかり受傷

有痛性2度熱傷として  
処置を行なっていたら...

受傷13日後...



42日後  
自宅処置  
入浴可

99日後  
瘢痕軽度  
硬縮なし  
50回受診



# 当院熱傷治療の実際(症例)

49歳女性 熱湯で受傷



初診時 2度深層  
ハイドロサイト



翌日  
ハイドロサイト  
途中からフロペト



10日後  
治療  
5回受診

# 当院熱傷治療の結果

- 経過中に感染兆候併発なし
- 経過が長いと痕は残るが硬縮なし
- 植皮が必要になった症例は無い
- 低温熱傷は治癒期間長期化
- 低温熱傷や3度熱傷など特殊なケースでなければ3週間以内に完治
- 通常ステロイド軟膏又はワセリン外用、被覆材で湿潤環境維持で早期に治癒

# 考察

- 現在のエビデンスはベースになる処置すなわち湿潤治療かそうでないかで変わる可能性が高い
- 受傷初期に出現する感染兆候(組織熱)はステロイド軟膏で抑えられたものと思われる
- 消毒は創傷治癒に有用なサイトカインに悪影響を及ぼし細胞毒性があるため創傷治癒過程に有害
- クリーム基剤などの界面活性剤を含む外用薬は創傷治癒過程に悪影響を与える
- 長期化する熱傷などの創傷では外用剤や被覆材などを適切に使用することで治療期間短縮につながるとと思われる
- 適切な治療が行われず深達度を悪化させ植皮が必要となるケースが多いと思われる
- 深達度評価には肉眼的には困難で、問診が重要

# 課題

- 熱傷治療のガイドライン進化
- 医学的根拠に基づいた処置の浸透
- 専門医に相談できるシステム構築

# まとめ

正しい治療をすれば早く治る

正しい治療をしても困難な症例はある

誤った治療でも治るときは治る

根拠がなければ評価が誤る

評価が誤るとガイドラインも誤る

熱傷治療が発展向上しますように！